

平成29年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価 総括表

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、基本的人権を尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる人間力を育成する教育を推進する。
- ③ 社会の一員としての役割を果たし、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立していくために必要な能力や態度を育てるキャリア教育を推進する。

2 本年度の学校経営目標

- ① 職業人として必要とされる資質や態度を身につけた人材を育成し、個々の進路実現が図れる学校づくりを推進する。 [学校力の向上]
- ② 豊かな人間性と高い人権意識を身につけ、他者を思いやる心と自尊感情を育む。 [人間力の向上]
- ③ 専門分野に関する確かな技術及び技能の定着を図り、ものづくりなどの体験的学習を通して実践力を育成する。 [実践力の育成]
- ④ 地域の活性化や地域産業を担う人材の育成と地域との連携を深め、地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。 [地域との交流]

3 重点目標と計画

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題 今後の改善方向		
中期目標	重点目標	目標達成のための計画	評価指標・活動計画	具体的な取組・評価の根拠	評価	学校関係者の意見			
学校力の向上	①基礎学力の定着を図り、学力の向上を図る	出張等による授業振り替えや学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。	年間の授業実施時数を1単位につき35時間の80%以上確保することを目標にする。	2学期末まで総授業時間数は8196時間であった。目標時間数が9466時間であることを基に比較すると86.6%を達成できている。	A	基礎学力向上週間は大変良いことだが、内容が大切である。各個人の成果が見える方策の検討が必要である。	引き続き学校行事の精選と授業時間数の確保に努めていきたい。		
		各教科の「学習指導の記録」の作成・中間評価・最終評価を実施して、わかりやすい授業へ改善を進める。	生徒の授業評価アンケート総合評価4.0以上を目標にする。	2学期末に実施した授業評価アンケートにおいて総合平均が4.15であった。	A			興味関心を高め、主体的に参加できるような授業や指導方法の検討・改善に今後も引き続き努める。	
		実力テストを実施する。 1年生：国、数、英、2・3年生：国、数、英、SPI（2回）を全学年とも年3回実施する。	実力テストと進路実現との関連についてアンケートを実施する。	あこう意識調査の結果より、66.3%が役立つ。	B			実力テストの実施後、各学年・教科の平均点を発表してほしい。また、正答の解説ちきんとしてほしい。平均点が60点位になる問題の作成を心がけてほしい。	実力テストの内容を精選し、進路実現に役立つように見直しを図る。
		基礎学力向上週間を年間5回実施する。	基礎学力向上週間についてアンケートを実施する。	あこう意識調査の結果より、63.9%が役立つ。	B				基礎学力向上週間の内容を再検討し、学校全体で取り組む雰囲気作りを行う。
		ものづくりHR活動を各学年1回以上実施し、手先の器用さや忍耐力の向上を図る。	ものづくりHR活動についてのアンケートを実施する。	あこう意識調査の結果より、74.8%が役立つ。	A				ものづくりHRの内容を再検討し、達成感のある内容にする。

	教科・科目の特性に応じて、基礎的な知識と技能の習得させ、思考力・判断力・表現する力等を育み、言語活動の充実を図る。	興味関心を高める楽しい授業・わかる授業を目指して授業の工夫・改善を進める。教員の相互授業参観・生徒による授業評価などを通して教員間の生徒理解を深め、理解やスキルの共有化に取り組む。	基礎学力向上週間に合わせて教員の相互授業参観を行った。国語科では、各学年とも授業の初めの10分～15分間を利用して、漢字や一般常識の問題集に取り組み、思考力の幅が広がった。実習時には実習結果発表をさせた。ほぼ全員の生徒が真剣に臨んだ。	B	教員の相互授業参観は大変重要であり、実施に大賛成である。ただし、授業の進め方等について積極的な意見交換があるかどうかが大切である。活発にしてほしい。	1人5回の授業参観を目標に実施する。家庭での学習習慣を身につけさせるため、適切に課題を与え、提出させる。 積極的にICTを活用し、わかりやすい授業展開を行う。
②進路実現を支援するキャリア教育を進める 進路情報の収集・提供と進路選択の支援及び就職内定率の向上を図る	3年担任、科長、進路指導課員が、最新の進路に関する情報を収集し、生徒に適切な情報の提供に努める。生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。	生徒の希望する企業等を訪問し、適切な資料や情報を収集する。 進路ガイダンスや進路講演会実施により進路選択を支援する。 三者面談、応募前職場見学、進路先資料の公開を通して進路選択を支援する。 採用実績を考慮に入れた進路選択により内定率の向上を目指す。 生徒アンケートによる評価を行う。	県外のべ36社、県内数十社に出向き求人計画、入社試験概要などの聞き取り調査を行い、生徒に有意義な資料を提供できた。 受験生92人中86人が応募前企業見学が可能であり、その内およそ9割の80人が応募前見学に参加した。(不参加者はすでに企業のことをよく知っているため)企業を知る良い機会となっている。 一次募集の内定率が93%(86/92)であり、昨年以上の結果であった。依然、学科試験の成績が今一步で不採用となった生徒が多かった。	B		県内企業の訪問先についての検討を年度当初に入念に行い、適切な企業訪問を実施する。 本当の意味での応募前企業見学(面談で決定する前の見学)が実施できる環境作りの検討を行う。 進路説明会への保護者の参加率を向上させる方法の検討を行う。 入社試験における学科試験対策についての検討を行う。
③校内教職員研修の充実を図る	各課と連携し校内研修の充実を図る。	昨年度以上の研修を実施する。	人権教育、教育相談、コンプライアンス研修などは昨年度並みに実施できた。授業改善のための相互授業参観の定着化、研修の活性化が図られた。	B	校内研修は大変大切であり、必要だが、外部講師だけでなく、校内の教職員が自分の体験等をもとに発表することも大切である。	校内研修の活性化のために、研修時間の確保を図る。職員全体の研修会の開催が困難な場合は、各学年部会を開くなどして研修の機会を確保する。 次年度も昨年度並みの研修を実施する。
④図書館の利用を進める	図書館便りを定期的に発行したり、新入生にはオリエンテーションを実施する。	来館者を増やす。 生徒1人あたりの貸し出し冊数を増やす。	2学期末までで、生徒1人あたりの来館回数が3.8回であった。 2学期末までで、生徒1人あたりの貸し出し冊数が2冊であった。	C	図書館の利用が少し悪いと思う。ただ、現在は教室と図書館の距離も関係しているのかもしれないが、生徒の利用方法を考えてほしい。読書は入社、入学試験での小論文・作文等に十分生かされるので、い	利用しやすい場所に配置し、生徒のリクエストを蔵書に反映させる。
⑤情報セキュリティ対策を推進する	情報セキュリティポリシーに関する知識の啓蒙を行う。	職員会議・職朝を積極的に活用し注意喚起し、セキュリティに対する意識の向上を図る。	1月末時点で4回実施した。	B		基本的なことに、繰り返し啓蒙活動を心がけると共に、実施回数を増やす。
⑥事業の実施による	6次産業化プロデュース事業や産学連携「徳島な	事業の実施により、創造力と実践力が身についたか、アン	連携4高校生徒が協働し、多岐にわたる実践的な活動が出来た。成果報			地域の次代の人財育成をめざして、さらに、事業推進

る活性化を図る	らでは」のものづくり事業などを、地域社会や、大学等と連携して、より実践的に取り組む。	ケート結果により70%程度の満足度を得る。	告会では、取組報告及び成果について発表が出来た。また、携わった生徒のアンケート結果でもほぼ全員が満足を得る結果であった。高大連携事業も、徳島大学との連携で実施した。	A	ろいろな本を読んで文章力・表現力をつけてほしい。以前は朝のHRの時間に読書をする時間をとっていた学校もあるので、方法を考えてほしい。	を図りたい。
⑦部活動の活性化を図る	全員加入を目標とする活気ある部活動を実施する。	1年生の部活動加入率100%以上、全体での入部率85%以上。	1年生の部活動加入率は、102%。学年全体では、91%であった。昨年より1年生は6ポイント上昇、学年全体でも7ポイント上昇した。ただし、部活動より他のことへの興味が向けられていることも憂慮され、更なる魅力ある部活動を展開したい。	A		部活動で学べることの大切さを継続して指導し、近年の部活動離れを食い止め、昨年以上の部活動加入率アップを目指したい。
	競技力の向上を目ざす。	前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。	本年度も写真部の活動が活発で、全国高文祭にも出品した。運動部は剣道部(個人)が全国総体に出場した。また、ホッケー部は全国選抜大会に出場した。また、溶接技術競技会では四国大会にも出場するなど活躍した。	B	部活動、特に運動部は、心身の健全な発育・発達を促すだけでなく、それを通じて自己責任やフェアプレーの精神を身につけることができる。	全国大会出場が減少したものの、個人で四国大会出場などが増加した。今年度の入部率は高いことから今後ますますの競技力向上を図りたい。また、現1年生が部活動を継続できる指導を行う必要がある。
	生徒が自主的に活動できる生徒会を育成する。	中央委員会の活動を活発にするよう年3回は計画する。	球技大会は生徒会役員が自主的に運営ができています。昨年度より、生徒会が模擬店を出店した。また、昨年に引き続き新野高校とともに、伊島ささゆりの保護活動にも参加した。	A	さらに、豊かな心と他人に対する思いやりの心を育ててくれると同時に、学校の活性化にもつながるので、是非今後も奨励してほしい。	今年度の生徒会会長選挙では立候補者が出て、信任投票を行った。次年度も、生徒会中心の人材の育成を図りたい。
	体育祭、文化祭を充実させる。	文化祭での来校者数が300人以上。体育祭で近隣の保育所、幼稚園などと交流を行う。	文化祭は、276名の来校者であった。昨年に比べ若干多い結果となった。体育祭は毎年、幼稚園・保育所との交流を続けられており、今後も継続したい。保護者の来校も多く見られるようになった。	B		文化祭前夜祭はライブを実施した。体育祭、文化祭の、アンケート結果は満足であったの回答は90%以上であった。次年度、新校舎も完成することから、校舎見学を含め、多くの来校者を目指したい。
	人権教育の活動を進める部活動の「あこう研究会」の活動を充実させる。	校内活動及び「中・高生による人権交流事業」南部ブロック生徒部会や地域との交流会等に100%程度参加させる。	南部ブロック生徒部会や中・高生による人権交流集会をはじめ、地域との交流会、他校との交流会等あわせて参加率が100%であった。	A		地域との連携をはかり、生徒の自主性・主体性を育成する。
人間力の向上	①基本的生活習慣	規則正しい生活に心掛けるよう指導し、家庭との	1日の学校全体の遅刻数を7回以内にする。(平均)	クラスの1ヶ月遅刻5回以内表彰を行い、目標を持たせた。	遅刻防止・頭髪服装を正しくす	立哨指導やパワフル運動など継続した取組や指導の成

の確立を図る	連携を深めながら遅刻防止に取り組む。(遅刻時の声かけ, 月遅刻6回以上生徒への指導)(生徒課長・学年主任・各科長)		遅刻生徒には, 生活指導などを個別に行った。 2学期までの1日の遅刻平均は, 3.5人と目標の半分に抑えることができた。また学校全体で遅刻がゼロという日もあった。	B	る取り組みは, 今後の社会生活をしていく上でも不可欠である。継続して取り組んでほしい。	果が出た。今後も継続して指導をおこない, さらに遅刻数減少に取り組みたい。
	積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。(パワフル週間, 学校安全の日)	すべての生徒が挨拶出来る。	パワフル週間や学校安全の日, 又登校時の服装指導等を通して指導にあたった。 校内でも運動部生徒を中心に他の生徒も概ね元気に挨拶が出来た。	B	元気な挨拶ができる生徒が多いが, まだ十分でない生徒もいる。教員が率先して模範を示すことも大切である。	今後も継続していきたい。積極的に挨拶できるよう指導を行う。
	頭髪・服装を正しくし爽やかに生活する。(全校集会における頭髪服装指導と継続的な指導)	頭髪服装検査を月1回実施し, 1週間以内に改善を要する生徒を30人以内にする。	毎月の全校朝会において, 係り教員を中心に指導を行った。頭髪以外における改善を要する生徒の1ヶ月平均人数が26名と昨年の約半分であった。 頭髪については, 年度当初に多くの生徒を指導したため, その後は減少した。	B		2・3年生では校章忘れによる指導がほとんどであった。次年度も全教員で徹底したい。 頭髪については, 違反者が激減した。さらに根気強く指導を続けたい。 また, 新入生のブレザーの着こなしが後半できていなかったため, 全教員が共通認識できるよう努める。
	②人権意識の高揚を図る	「人権学習ホームルーム活動」の充実を図る。	人権感覚を高めるため, "じんけん", "あわ"人権学習ハンドブック+αをそれぞれ5回程度活用する。	人権を確かめる日, 人権学習ホームルーム活動において参考資料として, 5回以上活用した。	A	実に多くの取組がなされており, 生徒は多様な経験ができています。
	学校の教育活動全体をとおして, 人権尊重の精神を訴える。	生徒の人権学習アンケート等の評価を75%程度にする。	3年生のアンケート結果より, 人権学習のホームルーム活動で「有意義であった」と回答した生徒は 88.9% を占め, 満足していると思われる。	A		人権意識の高揚と問題解決に対する態度や行動をさらに充実させるための指導を計画的に実施する。
	公正な採用選考のあり方について理解させる。	校内管理職面接で, 「就職差別につながるとされる14項目」に抵触する質問を受けたとき, 85%以上の生徒が指導したとおり返答されるように指導する。	人権学習ホームルーム活動や各科目での就職面接指導の成果が十分であった。	A	普通科では実践できないことが, ここでは経験できているため, 生きていくための力を十分に育てている。	各科と連携して指導を充実させる。
	校内人権教育教職員研修の充実をはかる。 人権教育関係行事の内容を充実させる。	人権学習ホームルーム活動打合せ会と教職員研修会を合わせて年8回以上開催し, 90%以上参加する。「人権を確かめる日」や人権問題に関する講演会・映画会等を実施す	人権学習ホームルーム活動打合せ会と校内教職員研修会をあわせて, 8回以上実施した。参加率は 85.7% であった。 人権問題講演会を実施し, 拉致被害者から話を聴くことにより, 日本人	B A		教職員研修会の参加率を向上させるための工夫・改善等が必要である。 映画会と講演会の両方で計画する。

		る。	拉致問題について理解を深めることができた。				
③環境教育を推進する	校内美化を徹底する。	毎日の清掃を徹底する。(毎日の清掃出席簿を作成する。)(月に1回の大掃除)	生徒の清掃活動出席は、ほぼ95%だった。	B	環境問題は非常に大切であるので、講演等の内容を生徒の身近にある問題にしぼって、生徒が理解できるものであってほしい。	引き続き、清掃活動の活性化に努めたい。	
		年1回の全校除草(技師との連携)を行う。(専門棟は各コースで行うようにする。)	校内除草作業は5月に、完全実施できた。	A		新校舎になり、除草個所の見直しが必要になる。	
		教室等のゴミ資源を6分類するための資源箱を設置する。学期に一度ゴミ袋内の分類程度を確認する。	ゴミの分別は、完全に出来ていた。	A		引き続き、ゴミ分別活動の活性化を図りたい。	
	循環型社会形成を推進する。	ゴミ資源校内集積場を整理し、月一度ゴミ資源の集積状況調査をする。	毎月ゴミ収集場の収集状況を調査。	A		リサイクルや省エネルギー、環境問題についても推奨するような取り組みをしてほしい。	次年度も続けたい。
		年1回雑誌を古紙業者収集依頼する。	雑古誌置き場に雑誌等が集積されていた。古紙業者の年1回の回収を実施できた。	A			次年度は年2回実施したい。
	省エネルギーへの取り組みをする。	電気使用量・水道使用量を前年比で減少させる。	電気代が前年度並みであった。	B			節電・節水を励行したい。
	環境問題講演会を実施する。環境問題標語・ポスターを募集する。	3年間で環境問題の重点課題が理解されるよう講演内容を検討する。地球規模で考え、足下から実行できる人間を育成する。	標語提出率は、85%であった。	C		提出率の更なる向上を目指したい。	
④安全教育を推進する	防災教育の推進。火災時の初期消火と避難、人員確認	いつでも、どこでも安全に避難し、人員が確認できるような体制を整備する。	いつでも、どこでも、安全に避難し、人員が確認できるような体制を整備する。	A	災害時の危機管理は大変重要である。阿南工業高校は、地域の避難場所にもなっていることから、今後も地域と連携した防災活動に取り組んでほしい。	次年度は避難訓練の内容を考えたい。	
	地震時の避難と人員確認。	避難訓練をより実践に即した方法に改善する。	避難訓練をより実践に即した方法に改善する。	B		単に避難するだけでなく、内容の濃いものを考えたい。	
	自転車・原付の交通事故をなくすため、交通安全意識を高める指導に取り組む。	交通事故0を目指す。月1回自転車点検と駐輪指導、原付安全実技講習会の実施。	登校時の交通指導や、原付の実技指導、免許所有者集会を定期的に行った。月に一度自転車駐輪指導を実施した。			自転車通学時の安全の意識を高める指導を行う。また自転車安全利用に関する条例を遵守する指導を行う。	

		交通安全講演会の実施。	また、交通安全講話を実施し、交通安全に関する意識を高めることができた。しかし、軽度の事故であったが毎月1回以上登校中の自転車事故の報告があった。 原付事故の報告はなかった。	C		(自転車整備・ヘルメット・自転車保険)
⑤健康教育を推進する	円滑な教育相談活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。	教育相談室を毎日開室する。“教育相談だより”を発行する。	ほぼ毎日、教育相談室を開室した。教育相談だよりを1回発行した。	A	教育相談室を活用していることは、とてもよいことである。生徒の心のケアを今後とも続けてほしい。	教育相談に関する情報の啓発を積極的に行う。
	食に関する知識と食を選択する力を習得させる。	食育に関する講演会を実施する。食育かるた等を活用し、生徒の食に関する知識の向上を図る。	食育講演会を実施し、食の自立や栄養指導等、将来の食生活に必要なとされる知識について理解を深めた。	A		食育カルタをホームルーム活動で実施し、地産地消の啓発等も行っていく。
	生徒自らが健康管理ができるように、継続的な保健指導を行う。	保健だより等で保健に関する啓発を行う。繰り返し保健室を利用する生徒の数の減少を図る。	保健だよりを10回発行した。文化祭での展示を実施し、意識啓発を図った。	A		保健だよりやその他の掲示資料等で保健に関する啓発を迅速に行っていく。
⑥特別支援教育を推進する	特別支援教育についての研修を充実させ、効果的な支援体制を確立する。	特別支援教育について校内教職員研修会を5回実施する。支援の必要な生徒がいる場合にはケース会議を行い、職員全体の共通理解を図る。外部機関と連携し、生徒にとってより適切な支援を行う。各学期に1回程度、支援だよりを発行する。	特別支援教育についての校内教職員研修会を5回実施した。 S Cとの連携強化を図り、ケースに応じて個別対応(本人・保護者)を行った。 支援だよりを1回発行した。	B	生徒の声を聞くことのできる教員を育ててほしい。	校内の特別支援体制を整える。 教職員の知識サポートとなるような「支援だより」を発行する。 外部機関との連携を図り、支援体制を強化する。教職員研修の充実を図る。
⑦学校いじめ防止の取組を進める	学校いじめ防止基本方針を作成し、PTAの理解と協力を得て、取組を進める。	全教職員がいじめの定義を再確認し、いじめを許さない学校として早期発見、再発防止に取り組む。また年1回以上、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題に関する校内研修を行う。	未然防止のために、7月と12月に学校生活やいじめについてのアンケートを実施した。また、計画的に校内巡視を行い、生活状況の把握に努めた。本年度いじめ・いやがらせの件数は2件あり、1件については全教職員で対応し、現在は経過観察となっている。残り1件については、個人面談を実施したところ、過去にいじめられた経験があり、現在はその問題が解決しているとのことであった。	B	いじめの問題はまだまだ全国的にも存在しており、いろいろな事件が起こっている現実を理解し、絶対にいじめのない学校となる取り組みをお願いしたい。	いじめは必ずあるという認識のもと、全教職員がいじめの定義について理解し、対応強化を図りたい。
⑨ボランティア活	ボランティア活動を通し地域や世代を超えた交流	生徒会だけでなく部活動を巻き込んだボランティア活動を	インターアクト部が、文化祭で募金活動を行ったり、生徒会役員が特別		ボランティア活動などの社会体	生徒会役員の多くが運動部に所属しており、時間的余

	動を推進する	を行う。	3回実施する。	養護老人ホームへ車いす寄贈のボランティアを行った。	B	験の充実を図ることで、成就感や自尊感情が生えてくると思うので、どんどん行ってほしい。	裕がないのが現状である。今後は運動部とともにボランティアの機会を作りたい。
実践力の育成	①ものづくりの技術・技能の向上を図る	教員の旋盤技術及び溶接技術向上のための校内研修会を実施する。校外の研修会や実技講習会へ積極的に参加する。	校内研修会を1回以上実施する。 科から1名以上参加する。	ものづくりマイスターによる旋盤の研修を1学期に1回実施した。 2学期の若年者技能競技会に向けた研修会に2名の参加があった。	A	ものづくり技術を生かすためには各種のコンテスト、競技大会に今まで以上に多くの生徒を出場させる努力をしてほしい。	ものづくり校内研修を最低でも1回以上実施する。 校外研修に2名以上参加する。
	②ものづくり技術を生かす	実習等の成果を基に、各種コンテストや大会に参加して上位の成績を残す。	ものづくりコンテスト、ロボット競技大会、四国溶接技術競技会に出場する。	徳島県大会2位で、四国大会が3位であった。 ロボットは完成したが完走は出来なかった。 半自動アーク溶接部門で四国大会に出場した。	B	資格取得は先生方の負担も多いが、是非、各種の資格取得が出来るような努力をお願いしたい。	四国大会への出場をめざし、県大会では2位以内に入る。 自走式ロボットにも挑戦する。 中央テクノスクールと連携を図り、溶接技術の向上を図る。
	③安全作業教育を推進する	実習を通して、事故や怪我にあわないよう生徒の安全に対する意識の高揚を図る。	実習前に服装の確認や作業手順・ルールを徹底する。安全の確保ができるように職員が実習場の点検、体制を整える。生徒による評価を8割程度実施する。	集合時の服装チェックでは、ほぼ全員が正しく出来ていた。 大事故につながる恐れがあるので徹底して行った。	A		安全につながる正しい服装着用の徹底を図る。 引き続き、安全対策の強化に努める。
	④阿工版デュアルシステムの充実を図る	2学年全員参加の短期インターンシップと3学年希望者が参加する長期インターンシップの充実を図る。	生徒の進路希望に応じた行き先を確保する。評価平均値3以上の評価ができるようにする。	短期インターンシップについては今年度より阿南市商工会との連携を図った。生徒の自己評価については平均4.8であった。	A	インターンシップ事業は専門高校には不可欠であるので、さらに取組の強化をしてほしい。	長期インターンシップについては事業所の都合もあるので毎年は難しいが、可能な限り実施してまいりたい。
	⑤望ましい職業観・勤労観の育成を図る	進路セミナーの実施により進路に対する意識の効用を図る。社会人講師の活用や企業見学・現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させる。	企業の人事担当者、卒業生を招く。卒業生・社会人講師を招いて進路セミナーや見学会を実施する。生徒アンケートによる評価を行う。 事前・事後指導を各2回行う。	進路セミナーは2回、現場見学会3回、出前授業3回を実施した。 2回ずつ実施した。	A	望ましい職業観・勤労観の育成は、よく取り組んでいる様子ですので、今後も更に取り組んでほしい。	大いに効果があったと考えるが、授業時数の確保が大切であるので、次年度以降については精選してまいりたい。 事後指導は1回で良い。

	⑥資格取得を推進する	合格率をあげるために可能な限り、資格取得補習を実施する。 様々な資格取得にチャレンジするよう指導し、自主教材づくりを行う。昨年度以上の受験者数、合格者数、合格率を目指す。	旋盤3級技能検定に向けた実技指導を行い合格率を8割以上にする。 ボイラー協会と連携し2級ボイラー技士試験対策用の重要事項のまとめを作り、合格率を6割以上とする。 工業学会優秀賞受賞（資格ポイント8）を目指すような資格取得にチャレンジするように指導する。 2級土木施工管理技士の受験者を昨年より増加させる。	3級技能士に全員合格した。 2級ボイラー技士の希望者が出なかった。 3年生は25 / 28人合格した。 2級土木施工管理技士については昨年同様数、2級建築施工管理技士は今年度初めて受験をした。結果は各1名合格で土木施工に関しては8年ぶりである。また、1年生については本年度より建設業経理事務士4級を全員受験とし、合格率は73.9%であった。	A	各科の目玉となるような資格を積極的に取らせたい。工業の枠を超えて資格試験にチャレンジすることも今後必要である。例えば機械科の生徒に電気科の資格を取らせる等である。	全員合格をめざして取り組む。 ボイラー取り扱い技能講習と2級ボイラー技士取得の違いを明確にし、取得の増進を図る。 本年度同様実施予定。 依然として資格にチャレンジする生徒が少ない。本年度入学生から特定の資格を全員受験にしたので、他の資格についても同様に実施してまいりたい。
	③産官学連携を推進する	地域社会や企業、産官学と連携したものづくりや、ものづくり技術・技能の継承を行う。	連携先から良好な評価を得る。	大久保鍛冶屋及び南部テクノスクールともに、全員が満足いく評価であった。	A		外部講師によるものづくり向上のための実技指導を推進する。
地域との交流	①地域貢献を推進する	地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して地域貢献、学校間連携を図る取組を実施する。また、環境・防災関連製品を製作し地域へ応える。	連携先からの聞き取りアンケートにより6割以上の満足度を得る。 地域の要望に応えられたか聞き取りアンケートにより6割以上の満足度を得る。	スーパーオンリーワンハイスクール事業に係る防災懐中電灯の製作と、出羽島住民への寄贈を実施した。 地域産の竹活用を実施した。	A	スーパーオンリーワンハイスクール事業は、地域の活性化を担う将来の人材が育成できると思う。今後も積極的に行ってほしい。	連携の促進を図る。 ものづくりで地域貢献活動は重要な取り組みである。
	②積極的な広報活動と学校開放を推進する	ホームページの内容を充実させるとともに、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。	週1回程度はホームページを更新できるよう各課等に働きかける。	1月末時点で88回の更新ができた。（昨年度は59回であった）	A	積極的な広報活動と学校開放について、非常に努力されている。今後とも続けてほしい。	各課等にこまめな更新をはたらきかけ、さらに多くの情報を発信する。
		本校の教育内容や教育活動について、中学校に対し説明し広報に努める。	訪問校を前年度より増やす。	中学校への訪問回数は、のべ18回であり、平成28年度（16回）と比較して12.5%増加した。	A		新高校の教育内容についての理解を、より深めていただけるよう努める。
		中学生とその保護者を対象とする体験入学の内容を充実させる。	満足度70%以上を目指す	参加者アンケートにより大変良かった（96名）良かった（51名）合計147人で、全参加者148名に対して99.3%であった。	A	中学校への訪問回数および説明の対象者の拡大を図る。	体験入学時に良い印象を持ってもらいたい。本校の施設を活用して、本校ならではの体験をしてもらいたい。

<p>”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。</p>	<p>参加者を前年度より増やす。 (受付名簿による)</p>	<p>参加者 279 名 (今年度) 昨年度 249 名 (H 28 年度) となり、約 16.3 %増加した。</p>	<p>A</p>	<p>PTA 活動の活性化は永遠の課題であるが、それぞれの事情で特定の人しか活動に参加できないと思う。学校ホームページで活動内容を見られない人もいると思うので、手間はかかるが、生徒を通じての文書配布も実施してほしい。</p>	<p>新校舎も含めた本校の教育施設も見学して、ものづくりを中心に据えた教育活動を理解していただく一歩になるようにしたい。</p>
<p>文書案内だけでなく、情報ネットワーク課と連携し、学校ホームページ上で P T A 活動の案内を積極的に行う。</p>	<p>PTA 総会や人権講演会など、保護者に広報する。</p>	<p>P T A 総会や家庭教育部役員会で事業における広報をした。別の日に人権教育講演会を実施したにもかかわらず多くの保護者の参加を得ることができた。学校のホームページには掲載できなかった。</p>	<p>B</p>		<p>来年度は新野高校と合併することによって新しく P T A 活動がどのようになされていっているのか広報していかなければならない。</p>
<p>P T A 活動を活性化させることにより、保護者が気軽に来校できるような学校づくりを推進する。</p>	<p>P T A 総会、各種研修会などへの参加人数を昨年度以上に増やす。</p>	<p>P T A 総会では昨年度より多く出席していただいた。P T A 研修旅行においても例年通りの参加者で充実した研修ができた。</p>	<p>B</p>		<p>保護者が参加できる P T A 活動の事業がより魅力的な事業になるよう工夫したい。</p>